

れ

れいくぜん【名詞】 霊供膳 佛前に供える膳部 れえくぜんに同じ

れえ (礼) (でえ)【名詞】 れい (礼) の訛 家々を訪問して賀詞其他の挨拶をする習慣 通例は正月の年始礼に限って用いる。年賀の習俗にはいろいろ有るが大列すると 1) 供宴を伴う年始礼 2) 門札 (かどれい) 門口だけで年始の挨拶をなすもの 3) 総礼 一堂に会しての年始となる。[会話] レエ しょながつ (正月) の レエに いてこい (行ってこい) 言うて、しゅうぎ (祝儀) もてく (持って行く) 事を 年始ん (に) 行く事を レエん (に) 行かな (なければ) はざんわれ (いけない) 言うて 子供らん (に)。そすと (そうすると) 昔やれえがやし (礼返し) 言うて、重箱い (へ) 入れて、とふ (豆腐) もてたり (持って行ったり) こんにやくもてたり しよおった (して居ました)。昔や (は) 親のレエな (が) 五十銭で 伯父叔母や どきや (などは) 二十銭か十五銭か するやんない (するでしょう) するとさいご (その時) 銭で かやしや (返せば) 半分かやす (返す) 家も有るし十銭かやすとこ (処を) 五銭にする家も有るもんで (ので)、そんで (それで) とふ 一丁もてたり こんにやく五丁位して 重箱い (へ) 入れて れえがやしや (だ) 言うて 行きおったわい (行って居ました) 叔父叔母の家い (へ)。レエに行く人を れえど (礼人) れえどな (が) 来るよってん (から) に 言うて、親の家は 皆、子供らな (が) レエに来るやんない (でしょう) それや (それとか) なこと (仲人) しとると (していると) なことおや (仲人親) のとこい (所へ) れえどな (が) 来るもんで (ので) れえどな (が) 来るよってん (から) 年始 すんのん (するの) に 言うて ちよいと (少しの) ごっつおなあ (御馳走を)、今しみたよおな (今のような) 派手なごっつあ しやせんけど (しないが)、鮓に、刺し身に、三杯づけ位のごっつおやわい (です) 鮓すんのな (するの) が 関の山やわい。刺し身や、さんばいづけや 言うて うなぎ (うづぼ) の煮付け 数の子 数の子な (が) よけ (沢山) 有って。一番のかぶとん (一番大きい鉢に) 十二月言うて くざけて (水に浸して) あく抜いて、今しや (今は) 数のか (こは) 宝もん (物) やてや

(です)。そやもんで (それだから) 数の子か、煮付けか、鮓か、刺し身か、その位のもんやわい (物です) そして (そうして) れえど受ける 言うてその位ごっつおして、れえど 受けんね (受けるのです)。こおな (子供が) なんにん (幾人) 有っても こららも 皆ぞろぞろ連れて こらら (子供達) 皆、ついてくんね (ついてくるのです)。叔父や叔母のとこい (所へ) 行くのも 皆こららも 連れていて (行って)、そすと (そうすると) 銭も一銭か二銭くれや (くれれば) うれして (嬉しくて)。二銭のおっきい (大きい) 銅貨貰うと うれして おっきいな (大きいのは) 壁打ちのてぎや 言うて、それを楽しんで 巾着別ん (に) して ごっつお (御馳走) 食うて、よさりん (夜に) なるともろた (貰った) ぜん (銭) を、だあだあとあけて 勘定して すんのな (するの) が どいらい (大変) うれしかりおったなあ (嬉しかったのです)。

れえ【名詞】 1) 例 れいの訛、しきたり 2) いつもの事

れえうけ【名詞】 1) 礼受 年始の挨拶を受けること 2) 葬式の会葬者に礼を言う事 [会話] 1) れえ 受けんならん (受けてなければならぬ) 言うて、親許い (に) 年始ん (に) 行くやんない (でしょう) 年始を受ける 言うのを レエウケル 言うの (のです)。れえど (年始に来る人) 受けんならん 言うて。そして 年始ん (に) 行くのを れえん (に) 行くね (のだ) 言よおった (言っていました)。れえどな (が) 来る 支度すんのを (するのを) れえど 受けんならんよって (から) おらぎや (俺の家は) 忙しわれ (忙しいです) 言うてなあ。

れえうける 年始の挨拶を受ける [会話] 親許な あ (が) 子供らな (が) 皆 年始ん (に) 寄って来るやんない (でしょう)、それを レエ ウケル 言うの。親の有るうちや (間は) 親のれえに言うて 皆 行くやんかい (のです)。それを れえど (年始の人) 受けんならんよって (受けなければならぬ) から まあ 忙して 言うてなあ

れえがえし (れいがへし)【名詞】 送り物に対し行う返礼の金品 (南、張、名) [会話] レエガヤシ 今しや (今は) しやせんなあ (しません)、昔や (は) 一円して来ると 五十銭 返す 家も有るし、

ドな (が) 来るもんで (来るので) レエドな (が) 来るよってん 年始すんのん (するのに) 言うて ちよいとした (少しの) ごっつお (御馳走) なあ (です)。

れえとおもん (れいとおうもん) 【名詞】 冷凍物 鮮度を保ち保存のため凍らせた食品 冷凍して有る物、冷凍を解いたもの [会話] レエトオモン 冷凍してあるもん (物) を 言うね (言うのです)。

れえのやまやま 充分に御礼をしたり、言ったりする。やまやまは多い事を表す。愚痴のやまやま (志 (布施田))

れえひまち 【名詞】 れえごもりに同じ ひまち参照

れえばおこ 【名詞】 礼奉公 奉公人は年期の終わった後御礼の意味で主家にとどまって、ただで働くこと [会話] レエボオコ言うて 大工の弟子でも、佐官の弟子でも 三年なら三年言うて行くやんかい (行きます)、そすと (すると) それ過ぎてから 又一年つ行きおったのな (行って居たのです)。そいな (そんな) のおお (のを) レエボオコ言うのなあ (言うのです)。

れえまあり (れいまあり、れいまはり) 【名詞】 年始めに各家を訪れること [会話] レエマアリ 言うのは れえん (に) まあってくのな (て行くのを) レエマアリン (に) 行かな (なければ) 言うて。正月やどけでも (などでも) なことおや (仲人) な (の) とこ (所) い (へ) れえん (に) いたり (行ったり)、伯父さんや、叔母さんの、正月やなんや (に (とかに) まあってくの (廻って行くのを) レエマアリな。

れえまいり (れいまいり) 【名詞】 祈願を掛けた神社佛閣に祈願のかかった御礼に参拝すること。[会話] レエマイリ言うな (のは)、病氣しとるとか (してるとか) なんか 言うて 神さんに 治してくれ (下さい) 言うて、願いん (に) 行くやんかい (行きます・行くで有りませんか)。病氣な (が) 平癒すると レエマイリン (に) 行かな (なければ) はざんわれ (いけない) 言うて、願い事した時んなあ (に)。よお (よく) ても、わりいても (わるくても) 願い事な (が) して有ると レエマイリに 行かな いかんわれ (いけない) 言うてなあ、病氣の時ん (に) その人な (が) 死んだとしてもなあ レエマイリン (に) 行てこな (行って来なければ) 言うて。

れえれえし 【形容詞】 仰々しい。大仰しい。れいれい

しい

れえんいく 礼に行く。年始の挨拶に行く。[会話] 正月になると レエニク言うて、叔父さんのとこ (所) や (とか)、伯母さん とこ もてくの (持って行くのを)、はよ (早く) れえん (に) 行て来いよお言うて 子供らん (に) 皆 持たしたり おったわな (てやりました)。親許へは レエニク 言うて 年始に行くねけどな (のだが)、年始に行くのを レエニ イク言うね (言うのです)。レエニク言うて れえにいく 言うのを “に” 言わんと “ん” 言うて 言う人もおるし、れえんいて来い 言よおったの (言って居たのです)。

れきる 出来る。(志)

れきれき (歴歴) 【名詞】 偉い人

レッテル 【名詞】 顔の表情、特に女性。Lettel (オランダ語) (松)

れば 【名詞】 出刃包丁 (志 (鶴方)、鳥 (長岡))

…**れる** 可能。出来る。(志、鳥、四、鈴市、安、津、多、伊、尾、南)

…**れん** 出来ない。不可能。(桑市、桑郡、員、三、鈴市、一、久、飯、多、張、度、北、尾、南、熊)

れん (連) 【名詞】 首飾り。真珠の首飾。連なって居る物から。

…**れんかった** なかった 出来なかった。(志) [用例] 行こおもとたけど (行こうと思って居たが) 行かレンカッタ。

れんくみ 【名詞】 真珠の首飾りを作る事。

れんこ 【名詞】 蓮根 (桑郡、桑市、三、鈴市、伊、南、熊)

れんこ。れんこだい 【名詞】 きだい タイ科の海魚 全長 35 cmに達す。黄赤色で、特に吻は黄色味が強い。体に真鯛のような青色の小斑点は無く、背面に不明瞭な黄色の円紋が有る。両頬に白歯を欠くこともマダイとの著しい相違点。ちだい タイ科の海魚 全長 40 cm位になる。体型、体色ともに真鯛に似るがやや小さく、尾鰭の縁が黒くないので区別できる。体色は赤く、青い小点が散在。鰓蓋の後縁部の膜が暗赤色で、血を流した様に見えるところからこの名が有る。(志、鳥、南、熊)

れんじゃく (連尺) 荷を二つに分けて担つぐ事 (志 (布施田、甲賀)) [会話] レンジャクん (に) 掛けて言うて、前と後ろと 振り分けん (に) すんのを (するのを) レンジャクん (に) して言うて、信玄袋と 風呂敷包みを かずいて (担

いで。ひがなひいじゅう (一日中) 歩いとりおつた (歩いて居ました)。十七で やといがしら (雇い頭) して なんにん (幾人) 言うて やとて (雇って) 行くんやんかい (行くのです)。みな (皆) レンジャクん (に) して 歩いて。

れんちゅう (連中) 【名詞】 仲間 一塊の人々

…**れんで** 出来なくて

…**れんど** されるぞ

れんぼお 【名詞】 電報 (志、鳥 (坂手、加茂)、三、鈴郡、一、松、上、阿、張、度、伊、南、熊)

れんわ 【名詞】 電話 (鳥 (坂手)、松、上、阿、度、尾、南、熊)